

シリーズ調査「われら信州人」
「生活編」
第3回調査
報告書
(2009年5月調査)

調査の設計	1
結果の概要	4
今回調査のポイント	6
各問の結果	-
単純集計	-
調査票	-



社団法人 長野県世論調査協会
Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610
<http://www.nagano-yoron.or.jp>

注：より詳細な内容（各問の結果～調査票）は会員向けに提供しております。
会員外の場合は有料となります。詳しくは上記までお問い合わせください。

＜シリーズ調査「われら信州人」のテーマ＞

	I	II	II
郷土・地域意識編	第1回 1994年11月調査	第6回 2000年8月調査	第11回 2008年3月調査
	・住みやすさ	・住みやすさ	・住みやすさ
	・長野県の将来の見通し	・長野県の将来の見通し	・長野県の将来の見通し
	・愛着感	・愛着感	・愛着感
	・住み続けたいか	・住み続けたいか	・住み続けたいか
	・県民として誇れるもの、自慢できるもの	・他県と比べて平均以上と思えること	・地域との関わり
	・長野県民の気質	・長野県民の気質・人生観	・長野県民の気質・人生観
		・自分の人生で長野県に住みたい時期	・自分の人生で長野県に住みたい時期
	・「ふるさと」と思う場所	・長野県の向かっていく方向	
	・信州のシンボル	・信州のシンボル	
生活編	第2回 1995年11・12月調査	第7回 2002年5・6月調査	
	・現在の生活の満足度	・現在の生活の満足度	
	・自由な時間の過ごし方	・自由な時間の過ごし方	
	・普段感じている不安や悩み	・普段感じている不安や悩み	
	・隣近所との交際状況	・隣近所との交際状況	
	・今関心を寄せているもの	・お祈りや信心	
	・食生活において気をつかうこと	・食生活において気をつかうこと	
	・作っている自家製の漬物	・「食」への関心、こだわり	
・洋服・衣類を選ぶのは誰	・県外への外出		
・情報・通信機器の中で現在家庭にあるものまた今後購入したいもの	・情報・通信機器の中で現在家庭にあるものまた今後購入したいもの		
自然と環境編	第3回 1997年3月調査	第8回 2004年4月調査	
	・信州の自然について	・季節の好き嫌い	
	・自然と人間の関係	・自然とのふれあい体験、野外活動	
	・信州の自然は守られているか	・ダム、リゾート開発の是非	
	・信州の自然景観について	・近隣からの環境被害	
	・10年前と比べてどうか	・自然・生活環境で心配なこと	
	・美観を損ねるもの	・省エネルギーの心がけ	
	・環境保全のために日頃心がけていること	・自然・環境破壊をくいとめるものは何	
・自然・環境破壊をくいとめるものは何	・メディアとの接触度合い		
	・内閣、政党、県政の評価		
家族編	第4回 1997年12月調査	第9回 2005年10月調査	
	・家族と話をする頻度	・家族と話をする頻度	
	・結婚観	・結婚観	
	・家庭の役割	・家族・家庭の役割	
	・主導権を握るのは誰	・主導権を握るのは誰	
	・家庭生活に必要なもの	・老後の親と子	
	・子供に期待すること	・家庭の周辺 10年後は？	
	・望ましい家庭生活	・子育て環境	
・青少年の犯罪の原因	・親と子・父と母		
・現在の家庭生活の満足度	・現在の家庭生活の満足度		
・老後の不安	・老後の不安		
・親戚づきあいの程度			
教育編	第5回 1999年3月調査	第10回 2006年10月調査	
	・子供への接し方	・子供への接し方	
	・一芸、推薦入学の是非	・一芸、推薦入学の是非	
	・習い事について	・習い事について	
	・「長野県は教育県」と思うか	・教育と人生観	
	・学校の完全週五日制について	・長野県の進学環境	
	・期待する小学校の先生の資質	・学校活動への参加	
	・いじめにあった子供の相談相手は	・望ましい義務教育のあり方	
	・学歴の受けとめ	・自分は教育熱心か	
	・中・高一貫教育への期待度	・中・高一貫教育への期待度	
・日本の教育の全体的な方向	・日本の教育の全体的な方向		
・学習塾の必要性	・学習塾に通わせているか		

I 調査の設計

調査の目的

長期継続の「われら信州人」調査は1994年、信州の人と暮らしを見つめ、郷土の特性を探ることを通じて、地域に根ざしたより良き明日を切り拓くことを願いにスタート。5つの分野 - 郷土・地域意識 生活 自然と環境 家族 教育 - の基軸テーマを循環させる方法を取っている。

生活編は、1995年の第1回から6～7年間隔で行われ、今回が通算3回目となる。この間、日本国内では、小泉内閣が主導した構造改革で頂点に達した自民党優位の政治から急転、民主党が政権交代を迫る二大政党対決へと突入した。県内では、改革をアピールした田中県政が“途中退場”を余儀なくされ村井県政に交代。

さらに国際社会では、超大国アメリカの一極支配が足下から発した世界同時不況により状況が一変。史上初めて黒人のオバマ大統領が登場し、スローガンに掲げる「チェンジ」は、地域社会のわれわれ自身をも巻き込む世界のキーワードとなった。

今回調査では、生活の満足度や食の志向、衣の選択、地域の付き合い、IT機器の取り込みなど従来の項目に加え 食の安全性を絡めた消費動向 健康状況や生活の中の笑い 所得格差に対する受けとめ - など社会的な要因をからめた項目を加え、多様なアプローチを試みる。

調査の全般にわたり、飽戸弘・東洋英和女学院大学学長と坂井博通・埼玉県立大学教授の監修を初回から仰いでいる。

調査の設計

調査対象	長野県内に住む20歳以上の男女1000人
抽出方法	層化三段無作為抽出法。対象の各市町村の選挙人名簿から抽出
調査時期	2009年4月25日～5月10日
調査方法	個別面接聞き取り
調査地点	19市8町6村の計54地点 (1地点20人が46地点 1地点10人が8地点)

回収結果

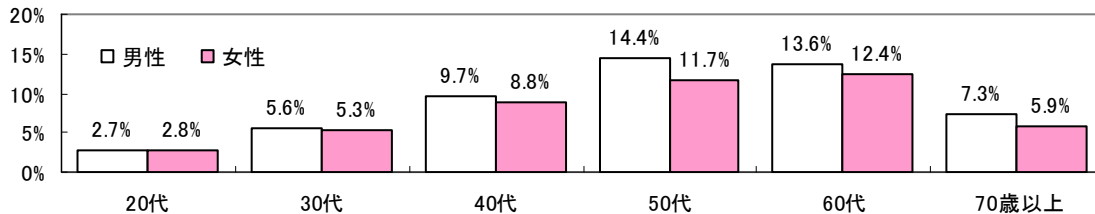
有効回答	752人(回収率75.2%) 男性400人 女性352人
------	------------------------------

<注> 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

回答サンプルの内訳

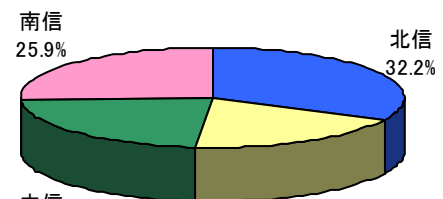
【性別と年代】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	752	41	82	139	196	195	99
	100.0%	5.5%	10.9%	18.5%	26.1%	25.9%	13.2%
男性	400	20	42	73	108	102	55
	53.2%	2.7%	5.6%	9.7%	14.4%	13.6%	7.3%
女性	352	21	40	66	88	93	44
	46.8%	2.8%	5.3%	8.8%	11.7%	12.4%	5.9%



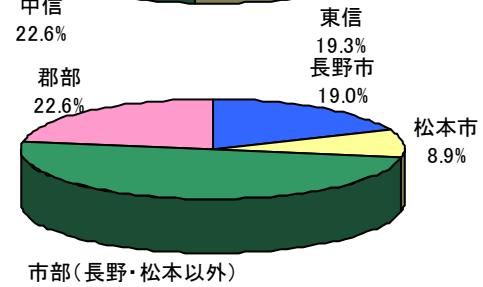
【地域】

地域	人数	割合	前回
北信	242	32.2%	29.1%
東信	145	19.3%	20.8%
中信	170	22.6%	24.9%
南信	195	25.9%	24.6%



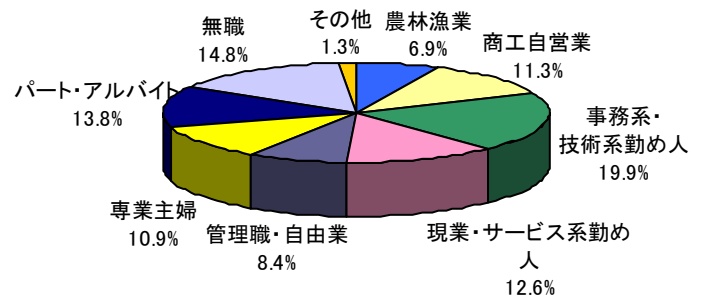
【市郡別】

市郡別	人数	割合	前回
長野市	143	19.0%	65.0%
松本市	67	8.9%	
市部(長野・松本以外)	372	49.5%	34.6%
郡部	170	22.6%	



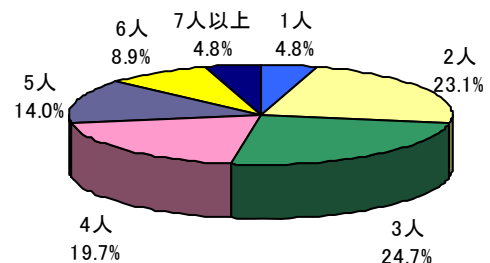
【職業】

職業	人数	割合	前回
農林漁業	52	6.9%	5.2%
商工自営業	85	11.3%	9.6%
事務系・技術系勤め人	150	19.9%	24.9%
現業・サービス系勤め人	95	12.6%	12.4%
管理職・自由業	63	8.4%	12.9%
専業主婦	82	10.9%	13.4%
パート・アルバイト	104	13.8%	11.5%
無職	111	14.8%	6.3%
その他	10	1.3%	3.4%



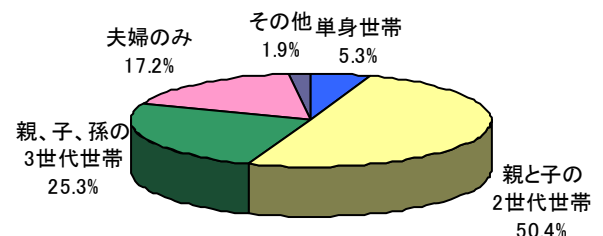
【同居家族人数】

同居家族人数	人数	割合	前回
1人	36	4.8%	4.2%
2人	174	23.1%	15.4%
3人	186	24.7%	26.5%
4人	148	19.7%	21.6%
5人	105	14.0%	14.9%
6人	67	8.9%	10.5%
7人以上	36	4.8%	6.3%



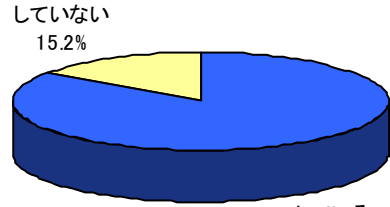
【家族構成】

家族構成	人数	割合	前回
単身世帯	40	5.3%	4.4%
親と子の2世代世帯	379	50.4%	58.0%
親、子、孫の3世代世帯	190	25.3%	24.3%
夫婦のみ	129	17.2%	10.1%
その他	14	1.9%	2.7%



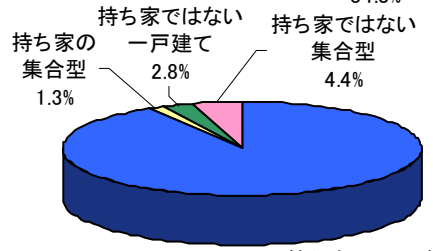
【結婚】

している	638	84.8%	前回	75.7%
していない	114	15.2%		23.3%



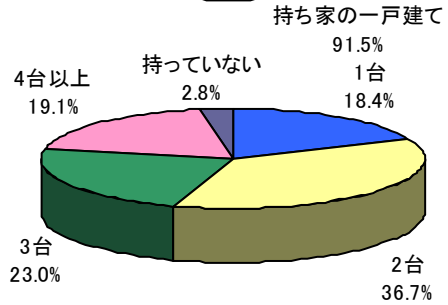
【住居】

持ち家の一戸建て	688	91.5%	前回	83.9%
持ち家の集合型	10	1.3%		2.6%
持ち家ではない一戸建て	21	2.8%		5.0%
持ち家ではない集合型	33	4.4%		7.7%



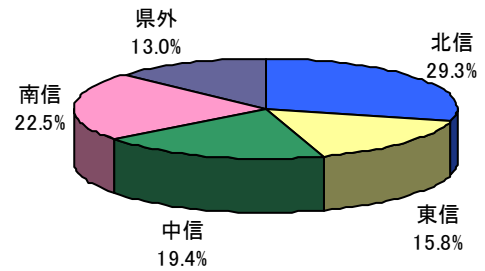
【自家用車の台数】

1台	138	18.4%	前回	17.9%
2台	276	36.7%		36.8%
3台	173	23.0%		23.8%
4台以上	144	19.1%		17.8%
持っていない	21	2.8%		3.0%



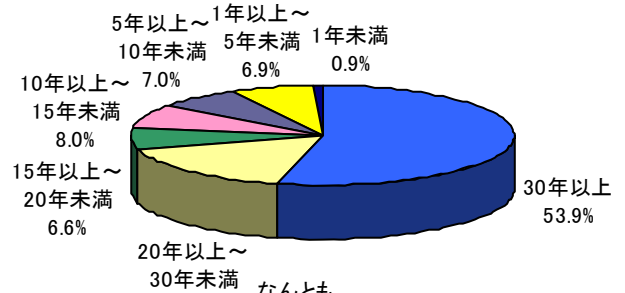
【出生地】

北信	220	29.3%	前回	25.5%
東信	119	15.8%		18.3%
中信	146	19.4%		20.9%
南信	169	22.5%		21.0%
県外	98	13.0%		13.0%



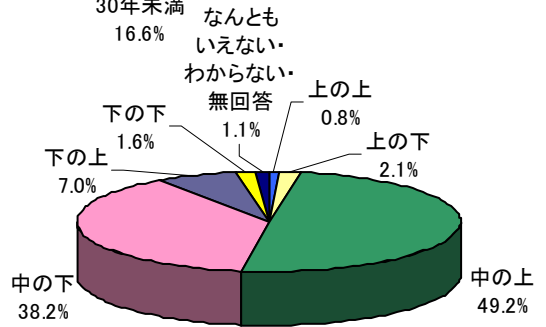
【居住年数】

30年以上	405	53.9%	前回	44.1%
20年以上～30年未満	125	16.6%		20.8%
15年以上～20年未満	50	6.6%		7.3%
10年以上～15年未満	60	8.0%		7.6%
5年以上～10年未満	53	7.0%		9.2%
1年以上～5年未満	52	6.9%		9.2%
1年未満	7	0.9%		1.5%

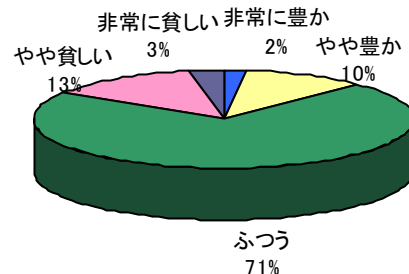


【暮らしぶり】

上の上	6	0.8%	前回	0.9%
上の下	16	2.1%		3.9%
中の上	370	49.2%		49.8%
中の下	287	38.2%		35.9%
下の上	53	7.0%		7.0%
下の下	12	1.6%		2.0%
なんともいえない・わからない・無回答	8	1.1%		0.4%



「日本人の国民性調査」(2008年・統計数理研究所)では



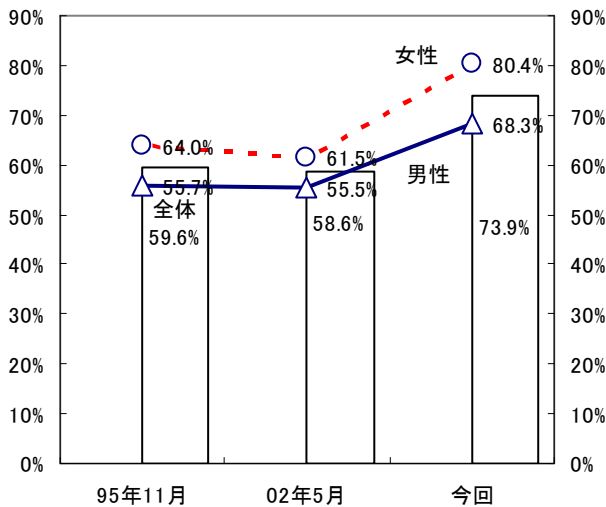
暮らし・ゆとりの実感

現在の生活「満足」アップ4人に3人 ゆとり「ある」も70%台

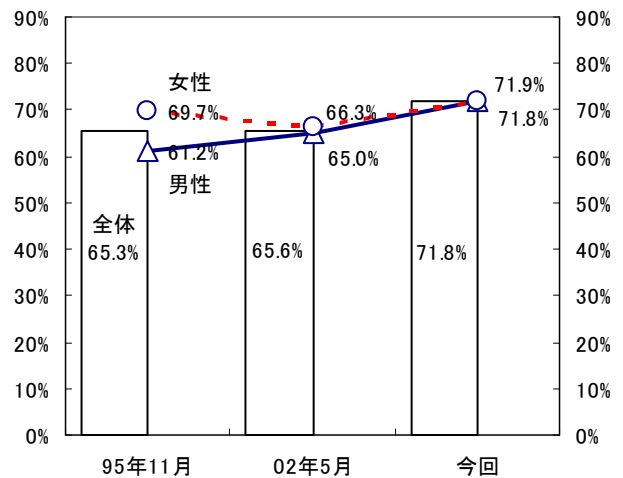
日ごろの生活で、時間的なゆとりが「ある」が増えて総体で70%台に乗り「かなりある」だけで20%に迫る。男女とも同じレベル。

これをうけて、現在の生活に「満足している」が総体で4人に3人の割合で、従来の調査(第1回1995年・第2回2002年)に比べて、15ポイントの大幅伸びとなった。

◆暮らし 「非常に満足」+「まあ満足」の推移～男女別



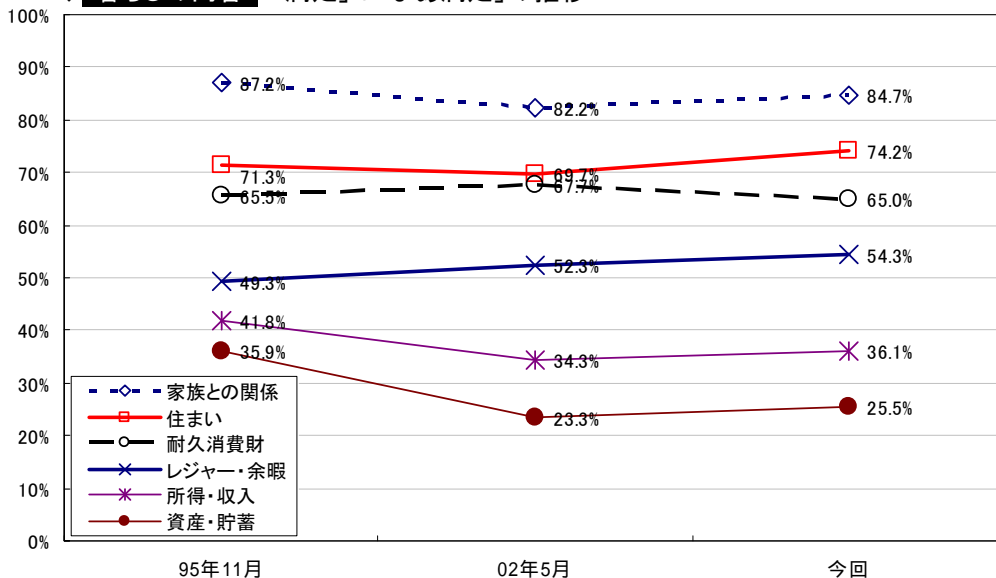
◆ゆとり 「かなりある」+「ある程度ある」の推移～男女別



◆暮らしの個別の内容 「家族との関係」「住まい」「耐久消費財」が高位キープ

生活満足の度合いを個別の面でみると、総体で「家族との関係」が最も高く85%。次いで「住まい」(74%)、「耐久消費財」(65%)が上位に挙げられた。他方「資産・貯蓄」は26%にとどまり最も低く「所得・収入」(36%)がその次。過去2回の調査から順位に変動はみられない。

◆暮らしの内容 「満足」+「まあ満足」の推移



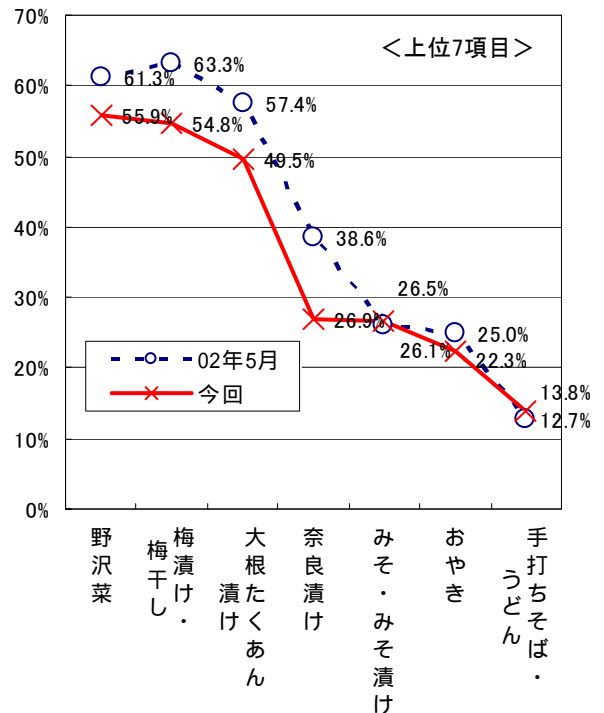
食の伝統の継承

手づくり「漬け物類」など軒並みダウン

自家製で食べている“伝統食”は「野沢菜」（前回2位）が僅差ながら筆頭に挙げられ「梅漬け・梅干し」が2位に後退。「大根たくわん漬け」が前回と同じく3位。上位4番の品はすべて手づくりの割合が下降している。

「梅漬け」「奈良漬け」「おやき」は女性で高めに加えて、加齢に伴いめだって増えていくのが大きな特徴。その一方で、若い層では「なにも作っていない」が30%台を占める。

また「野沢菜」が中信、北信で高めのほか「梅漬け」は中信、「たくわん漬け」が南信、「奈良漬け」と「おやき」は北信でそれぞれ高めの“地方食”の一面もみられる。



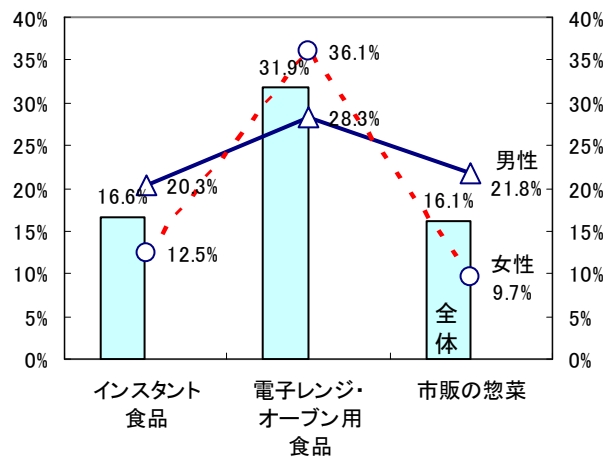
◆ 加工・調理済み食品

インスタント・惣菜「利用多め」 - 男性が上回る

日ごろ「利用する機会が多め」なのは「電子レンジ・オープン用食品」が32%と最も多く「インスタント食品」と「市販の惣菜」が16%台で並ぶ。

「電子レンジ・オープン用」で女性が高い半面「惣菜」と「インスタント食品」では男性がリード。年代層では20代が「インスタント」が44%に突出し「惣菜」は40代とともに高さもめだつ。

◆ 「利用する機会が多め」



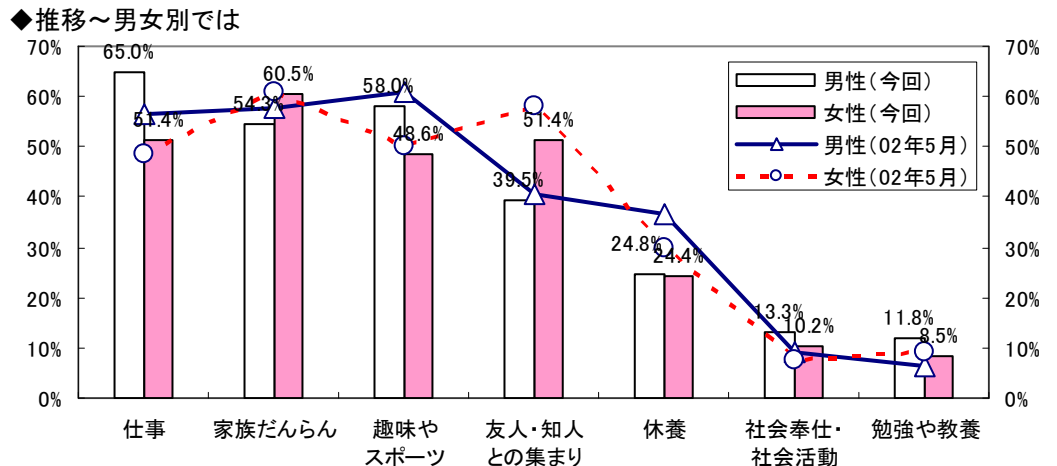
生活の充実感

男性「仕事」トップに突き抜け 女性は「だんらん」

日ごろ生活に充実感を覚えることの筆頭は「仕事」(59%)で、僅差で「家族だんらん」「趣味やスポーツ」が上位に並ぶ。

「仕事」は男性で65%に抜き出る。「趣味やスポーツ」も女性との開きが大きい。女性は「家族だんらん」で男性をややリード。全体で4位の「友人・知人との集まり」は、女性では同率2位に上がる。

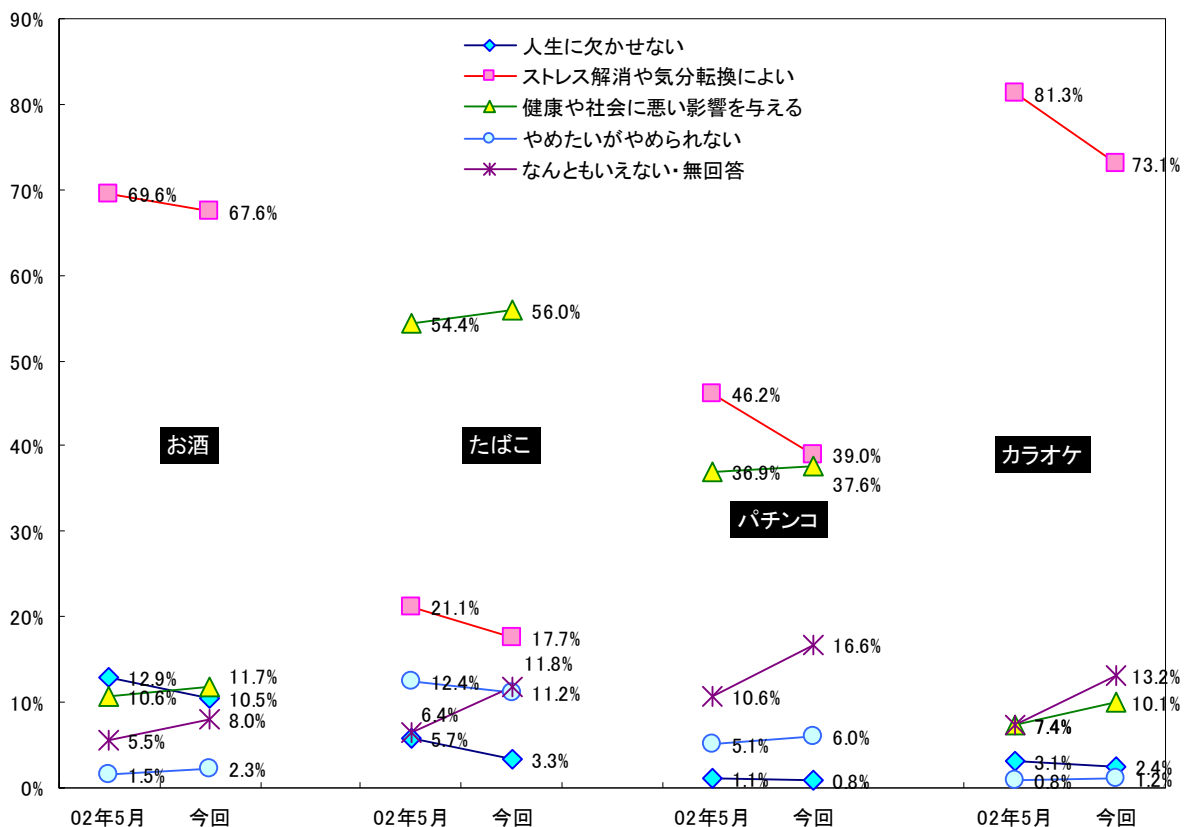
年代層では「仕事」が60代で約70%の高さを示す。「家族だんらん」は30代で76%に突出する。



◆ 日ごろの息抜き・楽しみ 飲酒、カラオケ…肯定的な受けとめが目減り

「ストレス解消や気分転換によい」という肯定的な評価は、カラオケが70%台に達して最も高く、飲酒も70%に迫り、パチンコは約40%。いずれも前回よりは下降した中で、女性の受けとめが高い傾向は前回と変わらない。

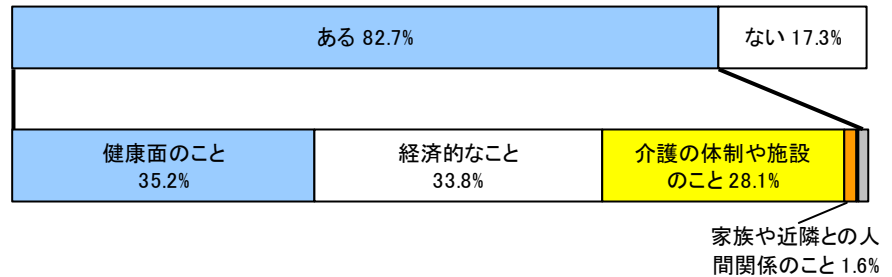
他方、たばこは「健康や社会に悪い影響を与える」が前回より増えて56%と最も高い。



老後の気がかり・気がまえ

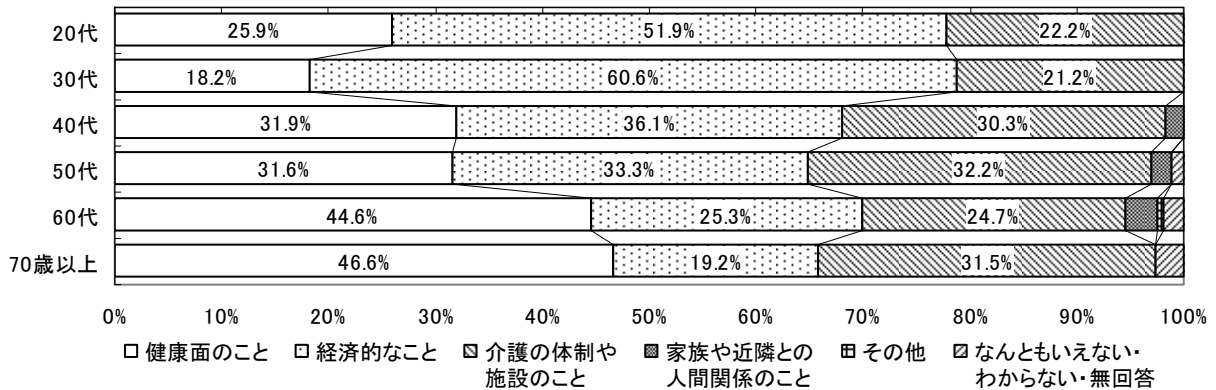
若年層「経済面に不安」 高齢層は「健康・介護」

自分や家族の老後に気がかりや不安が「ある」が80%台に達し「ない」は17%。男女にあまり開きはなく、年代層では「ある」が20、70代で80%を割り込む。



気がかり・不安の内容は「健康面」が35%、「経済面」は34%で並び「介護の体制や施設のこと」(28%)が続く。「健康面」は女性でやや高め、60代以上では45%前後に高くなる。「経済面」は男性が女性よりも10ポイント高く、30代で60%を超え、20代でも50%台に達する。「介護」は女性では2番目に上がり、40代以上で高めになる。

◆ 不安の内容 ~年代別では



◆ 高齢期も働きたい理由 60代以上「健康・生きがい」 若い層「収入面」

高齢期も働きたいと「思う」が4人に3人で、前回よりも微増。男女の違いはあまりない半面、年代層では30、50代で80%台に伸びる。

働きたい理由は「収入が欠かせないから」が50%と最も高く、男性が女性を引き離す。2番目に「健康によいから」(43%)が続き「自分のお金がほしいから」「働くことが生きがいだから」が上位にランクされた。5位の「職場や社会と結びついていたいから」は女性では3位に上昇する。

「収入が不可欠」が前回よりもアップした半面「自分のお金」はダウン。「職場や社会との結びつき」も減少した。

